
悪道

土下座侍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悪道

【ZPDF】

Z0261V

【作者名】

土下座侍

【あらすじ】

不快に感じる事が考えられますので苦手な方はお辞めください。

不平等

全てが大切で永遠に続くと信じていた

つるんだ仲間も、好きだった彼女も

散々馬鹿騒ぎをして、最強だと勘違いした

ただ楽しいだけの夏休みは永遠になんか

続く訳はなく、誰もが大人になつて

物分かりの良い振りをする

下らねー人生だと気づいた時に俺は地面に唾を吐き、太陽に向かつて叫んだ

「もう一回どくせえっ！…ぶつ飛ばすぞコノヤロー…！」

額に汗して働く俺は35 の真夏の日差しを浴びて、手に握ったハンマーを放り投げる

なんだか騒ぐ周りのオッサン達に片手を挙げると工事現場の出口に向かつて歩き出した

警備員の兄ちゃんにがマヌケな顔で俺を見る

通り過ぎる時、俺は兄ちゃんに肩パンを入れる

「兄ちゃん、こんなところで現場のオッサンに

笑顔振り撒くのが人生か……？」

警備員の兄ちゃんはヒヤツ！…つと抜けた悲鳴漏らした

俺はそんな馬鹿野郎など気にせずさつさと門をくぐり現場を後にした

テキーラ

馴染みのバーで俺はテキーラのショットを空けたとワ吟をかじる

「世の中は不平等だと思つわけだなお前は？」

隣でテキーラを同じように空けたアキはそのままカウンターを一本の指で叩くとバーテンの方に向かってビールと呴く

「ヒサよお、今さういお前からそんなにセンチな言葉が出てるのはな。今年の夏はいよいよ馬鹿もイカれるほどヤバいって事か」

バーテンがビールを2つよこすと何き囁き奥に戻る。
はつきりと言えよコノヤロー……と、少し苛つぐが我慢してアキを見る。

タピオカの殻を斜め後ろのカップルに向けて投げつけていた
「盛つてんじやねーぞコラ……！」

イカれた馬鹿はお前だと心で咳き紳士な俺はビールを飲む
「で、お前はどうなんだ？何かオレオレのバイト始めたって呴つてよな」

アキはタピオカの殻投げを三回ほど繰り返しビールを飲むと俺を見て、またビールを飲み口を開いた
「ダメだんなもん。下らねーから辞めた」

「だいたいよ、俺達を育て日本を引っ張ってきたおじいさんおばあちゃんにな、タ力るなんて酷い事ができるか…？」

俺はな、二つか世の中に何かしら返したいと思つわけ……だからあん

な事で儲けられつか……」

「やあか…つて、コラあ…！」

お前やつさ俺が仕事辞めた話したら散々馬鹿にしゃがつたじゃねーか！！」

「お前のセンチな話と一緒にするな。

俺は社会問題に真っ向からぶち当たつたんだ」

「何が社会問題だコノヤロー！！お前も俺と同じだつツーの」

「アア！？太陽が眩しいから仕事辞めた奴と同じだとコノヤローぶつ飛ばすぞーー！」

しばらく友情の殴り合いをした俺達は席に着くとカウンターを指で

叩きバー テンに

2つづつと駆け

テキーラとビールがそれぞれの前に並び無言で空ける

「ま、とつあえず無職だな…」

アキが咳き俺も重ねる

「無職だ…」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0261v/>

悪道

2011年10月9日09時21分発行